



今月は「マレーシア」のためにお祈りください

マレーシアは、東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする連邦立憲君主制国家で、イギリス連邦加盟国である。首都はクアラルンプール。タイ、インドネシア、ブルネイと陸上の国境線で接しており、シンガポール、フィリピンと海を隔てて近接する。ASEANの一員でもある。

マレーシアの経済・政治・宗教について

マレーシアは輸出国としてその経済を保っている。主な輸出品はゴム、パーム油、石油、林業や農業関係の物である。近年ではハイテク製品をも輸出している。大規模な工業化と自然資源の有効活用が経済成長を強く推し進めている。政府は1971年からマレー系の民族の経済活動を支援し、独立以前から経済活動をほぼ独占してきた中国系やインド系の民族とほぼ同水準まで押し上げた。アジア諸国からはマレーシアの豊かさにあこがれた移民の数が急増している。

マレーシアは1957年にイギリスから独立した。一部の政治的に強いマレー系によって、マレー化されていない国土半分に対する影響が強くなりつつある。彼らは教育や経済、宗教生活といった領域で力を強くしつつあるものの、一般のマレー人はこの流れからは取り残されている。また、野党と与党の両方にあるイスラム系政党は国の宗教や民族により大きな影響力をもとうとしている。

イスラムのスニ派が国教として認められている。宗教の自由は認められているものの、少数民族に対する信教差別が起こっている。イスラム教徒の律法であるシャーリア法は、数々の分野において国の憲法よりも上とされており、その背後にはイスラム政党の力がある。イスラム教徒へ改宗させることは違法だが、実際には、多くの少数民族をイスラム化させようとする動きが広がっている。

マレーシアのその他の情報

面積:330,434 km² (日本の約 87%) 人口:27,913,990(日本の約 22% 2010年時点)



首都「クアラルンプール」



イバン族の子どもたち



英国統治時代の建物

宗教:	
イスラム教	62.61%
中国宗教	12.70%
キリスト教	9.43%
仏教	6.50%
ヒンズー教	6.20%
無宗教	1.30%
土着宗教・バハイー・シーク教	1.26%

「主の定めを行うこの国のすべてのへりくだる者よ。主を尋ね求めよ。義を求めよ。柔和を求めよ。」 ゼパニヤ書 2章3節
祈禱課題

多くの課題を抱えるマレーシア政府に解決が与えられるように

人口上最も多く力を持っているとされているマレー系は分裂している。経済的には裕福なマレー系とそうではない者たちの経済格差の問題。政治的には与党でマレー系の UNMO は中国系、リベラル系、またイスラム系政党と対立している。宗教的にはイスラムのシャーリア法が影響を広げつつあり、これもマレー系の分裂を招いている。また、少数民族はこれらの動きに不満を抱いている。

拡大しているイスラム教の力が弱まるように

イスラム教徒の数が増えるにつれて政府における彼らの地位も上がりつつある。国内には 100 以上ものイスラム過激派が存在しているとされている。イスラム教から他の宗教へ変わることは違法であり、イスラムへ改宗させることも憲法上禁止されている。しかし 10 から 13 の州においてはイスラム教が州法上認められている。

教会の上に主の祝福があるように

キリスト教コミュニティには信教の自由はあるものの、活発に活動するイスラム教徒に悩まされている。差別を経験している少数民族クリスチャンの間に一致が必要である。教会やクリスチャンの多くの群れには、神様を恐れる指導者が不足しており、小さな教会にも訓練を受けた働き人がほとんどいない。既存の教会の平均年齢は上昇しつつあり、若い人材が救われていく必要がある。